

大人は
わかつてくれないうって、
自分も子どももの頃、
思ってたような。

「子ども理解」って、
何でしょう？
富樫先生、
教えてください。



例えば、とある小学校で1時間目の授業中、
寝ている子どもがいたとします。その理由は
「ゲームに夢中で夜更かしをした」「家族の帰りが遅かった」
など色々あると思います。寝ているという事実だけで判断し、
それをそのまま評価すると、注意したり、怒ったりする方に
向かいがちです。でも怒った瞬間、その子が寝ていたことが
「ダメ」ということになります。そうすると子どもも
「寝てしまった理由があるのに、この大人はわかってくれない」
と心を閉ざしてしまうかもしれません。なのでその行動を
いったん受けとめ、なぜそうなったのかを観察したり、話を
聞くことが大切です。ただ常に子どもを「受けとめなければ」と
一人だけで思うのはしんどいので、親や学校や地域など、複数の
目で子どもを見て、思いを共有し合えるといいと思います。
子どもは親の前や学校などで、見せる姿がそれぞれ異なります
(大人もですが)。相手が変われば、子どもの発言も様子も
変わっていくので「この子はこう」と決め付けずに
「自分の前ではこの子はこうなんだな」くらいに留めておく
程度の距離感でいるのがいいのかもしれない。
これ、大人同士の世界でも応用できそうですよね。

心理教育学科
講師 富樫 千紘



〈対面型・予約制〉オープンキャンパス開催中！

詳細・ご予約は和光大学ホームページをご覧ください。 9・10月は模擬授業も開催
ホームページ 検索 / YouTube 検索 / Twitter @wako_nyushi

- 現代人間学部
- 表現学部
- 経済経営学部

小田急線鶴川駅から
徒歩約15分
www.wako.ac.jp

ひとりを光らせる
和光大学